



# 「兄への尊敬の念を示したい」

ササキ  
27/6/8

## 李登輝前大統領、参拝の談話

靖国神社に参ります。62年間も会ったことのない私の兄を靖国神社で合祀し、遺書を守ってくれ、私は感謝の意を表してきます。これは個人的な私の立場であって、政治的にも歴史的にも(関連づけて)考えないでください。これは私の望みです。

私と兄は、2人兄弟で非常に仲がよかった。その兄と62年前に(台湾南部の)高雄で別れて以来、私のうちには兄の遺影もなければ、遺骨もないし、遺灰もありません。位牌は靖国神社にのみ残されています。それを私が家族のひとりとして訪問するということとは、私は兄に対する尊敬の念を示すためにもやらなければなりません。

私のおやじは10年前に亡くなるまで、兄が死んだことを信じておりませんでした。兄が亡くなったときには、彼の魂が、彼の遺書が、うちに現れたという事実は存在します。亡くなったその瞬間に帰ってきているはずですけども、おやじの関係でうちでは何もしておりません。私が60年ぶりに靖国神社に参りまして、頭を下げて遺書を記して、くるということ、私たちとしては当然のことと思えます。全く個人的な家庭の事情であります。みなさんにはよろしくお願ひしまして、政治的には何も、歴史的には何も考えてくださらないようお願い申し上げます。ありがとうございました。

2007年、ロシアと中国の重要性は、米国がイスラム世界で巻き起こしている衝突に劣らな

より、経済といった方が正しい。多くの人々が中国経済の高度成長に惑わされ、危機の存在を否定するが、重要なことは、

米国が外交ではイラク問題、内政ではブッシュ政権の弱体化で政治機能がいかに問題として米国に挑戦的な国がより侵略的な行動に出ると思われる。中でも重要な行動をとるのがロシアと中国だろう。

世界が中国の金融危機をいつ認識するのか、中国政府はいかに問題を処理するのかなどだ。中国政府は経済問題を引き起こす衝撃を緩和する政策に転じており、この中には宇宙計画や北京五輪開催、日本との歴史問題など、大衆の注意力を他の議題にそらすことも含まれている。

東アジアの中で最も重要なのは中国だ。今秋の中国共産党第17回大会が注目を集めるが、胡锦涛(総書記)は、実際にすでに勝利している。つまり政治の焦点は党大会の

対外戦略で核心となるのが米国と台湾だ。台湾海峡については、中国当局の関心は台湾の政局動向にあり、特に08年の総統選で、どの政党が政権をとるかに注目している。ただ、中国当局はすべての希望を国民党に委ねることはしない。慎重に、国民党への影響力を維持しながら、民進党への影響力も強化させていくだろう。

### 李登輝前大統領講演

### 「2007年とその後の世界情勢」要旨

中国と日本だ。日本は安倍政権時代に、中国と対等に張り合う力を持てるよう努力しなければなら

# 日本文化表敬とも映った

李氏靖国参拜

訪日中の台湾の前総統、李登輝氏が靖国神社を参拝した。先の大戦で日本兵として戦死し、靖国神社に祭られている亡兄をしのぶため、「政治的、歴史的には考えないで」と語った。

たように、亡兄への肉親の情からだろう。李氏夫妻が会見の中で見せた涙がそれを物語ってもいた。

靖国神社には約250万人の軍人、軍属が祭られ、そのうち約2万8000人が台湾出身者という。李氏の胸のうちには、台湾同胞への追悼の気持ちもあったにちがいない。

台湾は当時、日本であり、台湾出身者は日本国民として犠牲になったのだから、靖国神社は当然のこととして慰霊、感謝の対象としたのである。

台湾には台湾出身者の靖国神社合祀に反対して訴訟まで起こしているグループがある。しかし、靖国神社を参拝する台湾人の方がむしろ多い。李登輝氏と同じ心情からであろう。

多くの日本人にとって、靖国神社は国のために犠牲になってくれた人々に対する追悼と感謝の場であり、日本人の伝統的な心、日本文化に根ざした大

靖国神社をめぐることは、中国、韓国が首相参拝を政治問題化し、台湾にも靖国神社「悪」として批判する勢力がある。来春の台湾総統選挙も控え、李氏には政治的リスクもあった。

それでもあえて参拝に踏み切ったのは、まずは李登輝氏が記者会見で語った切な場所である。

その靖国神社に李氏が困難を押しつけて参拝してくれたことに、多くの人が素直に感謝の気持ちを抱いたのではない。李氏の靖国参拝は、日本文化への表敬とも映ったのである。

この李氏の靖国参拝に対し、中国は早速、「日本は李の目的が何かを知っているはずだ。中日関係に（悪い）影響を及ぼさないように望む」（外務省）と批判した。しかし、そうした不当な批判こそが、日中関係に「悪い影響」を及ぼすと知るべきである。

「奥の細道」をたどった今回の訪日で、李氏は3回の講演を行い、日本文化の大切さ、日本の国際社会での役割などを語った。学術、文化的に価値の高い内容であった。

李氏の比較的自由な訪日を実現したのは、関係者の努力に加え、安倍晋三内閣の良識にもよる。評価したい。